横浜市立 下和泉小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 4 ～ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度 具体的取組	令和 4 年度 自己評価結果	総括
授業づくり	①子どもが単元全体の見通しをもって、めあてを立てられるような授業の工夫をする。 ②子どもが学びの意義や楽しさを感じられるように、「人」とのつながりを生かした学習を展開する。	①校内重点研究やメンターチーム研修、学年研を通して、授業改善に取り組んだ。 ②外部人材との交流を増やしたり、異学年との活動に取り組んだり、学び合いを意識した学習を展開したりした。	B
特別支援教育	①一般学級と個別支援級の連携強化に向けて、特別支援教育COが中心となり、児童理解の場をもち、理解を深める。②児童理解と支援方法について研修や打ち合わせを通して、ユニバーサル的視点に基づいたひとり一人の児童の的確な見取りを実施し、支援の推進を図る。	①職員会議、打ち合わせなどを通して、児童理解の場を多くもち、児童理解を深められた。個別支援級との連携は円滑でないこともあった。特別支援COが中心となり、連携強化を図る必要がある。②特別支援についての研修を多く行い、教師が多様な視点からみとることができるように支援の推進を図った。	B
保健管理	①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用する。②一校一実践運動を生かし、運動に親しむ機会を設けることで体力の向上を図る。	①週一度の清潔ビンゴや長期休みには健康カレンダーに取り組んだ。手洗いや歯みがき、食事や運動等の規則正しい生活を送ろうとする意識づけを図った。②一校一実践として児童運動委員会から長縄集会の提案をし、児童が運動に親しむ機会を設けた。各学級で長縄に取り組むことで体力の向上を図った。	B
自分づくり	①ふり返り活動を充実させ、自他をともに認め合える環境づくりをする。 ②「人」とのつながりをいかした学習を展開し、一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。	①毎時間の授業の最後にふり返りをする時間を設けることで、自分や友だちを見つめ直す機会を意図的に設定した。 ②ペアやグループ学習を通して、互いを認め合うことで、自己有用感を高められるような学習を展開した。	B
いじめへの対応	①月1回以上いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、再発防止に努める。いじめを積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。②いじめ防止研修を通して、職員のいじめに対するアンテナを高め、児童アンケート等を通して、些細な変化を見逃さない体制づくりをすすめる。	①いじめの積極的な認知を行った。再発防止に向けて児童の気持ちに寄り添いつつ、丁寧に経過を観察している。②いじめ防止に関する研修を行うことで職員のいじめに対するアンテナが高まった。また、特別支援研修を実施し、信頼関係を高める方法、声かけの仕方などを学ぶことでいじめ防止に努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①子どもの笑顔をともに喜び合えるように、「ほう・れん・そう」を大切にする。 ②子どもと笑顔で向き合う心のゆとりを生むように、働き方改革を推進する。	①日常的に、その日にあったことを「報告」したり、明日の悩みを「相談」したりする環境を作り、風通しのよい職場づくりを進めた。 ②働き方について、学校全体で見直しを図るとともに、職員間の連携や声かけを大切にしてきた。	B
ブロック内評価後の気付き	昨年度に引き続き、感染拡大に伴い活動制限がある中、教務主任会・専任会・児童生徒交流日・学校運営協議会などを通して、ブロック内の情報交換や小中一貫の取組継続に努めた。 コロナ禍・アフターコロナを見越した新しい生活様式の中で、小中一貫の取組の形や実施方法などを、ブロックで話合い模索しながら、継続していきたい。		
学校関係者評価	感染拡大防止のため、学校運営協議会が予定どおり実施できないことがあった。 実施の際のご意見は、本ブロックへの高い評価をいただき、地域とともにあゆむ学校が継続できていると感じている。次年度の50周年への協力もお願いし、ともに歩めるように関係を深めたい。		
中期取組目標振り返り	学年によっては学力や生活意識が向上し、落ち着いて学校生活を送ることができている。学年間でこのような差ができる原因を検証し、学校経営に生かしたい。特別支援教育推進校の取組は非常に効果的で、個別な支援が必要な児童へ適切な指導・支援ができた。地域、中学校区、PTAとのかかわりを含め、業務改善と働き方改革を推進してく必要がある。		

重点取組分野	令和 5 年度 具体的取組	令和 5 年度 自己評価結果	総括
授業づくり	①子どもが安心して授業に臨めるように、授業改善を図るとともに、学習環境を整える。 ②子どもが学ぶ楽しさを味わえるように、教材研究を充実させる。		
特別支援教育	①児童理解の場をもち、児童理解を深める。②児童理解と支援方法について、研修や打ち合わせを通して、多様な視点をもつことで児童一人ひとりの困り感やニーズに対応した支援の推進を図る。		
保健管理	①家庭との連携とともに、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用しながら、自立や実践につながるような姿を培う。②一校一実践運動を生かし、運動に親しむ機会を設けることで体力の向上を図る。		
自分づくり	①子どもが自他をともに認め合えるように、ふり返り活動を大切にする。 ②自己肯定感を高められるように、「人とのつながり」を意識できるような活動を行う。		
いじめへの対応	①積極的ないじめ認知、経過観察を行うことで、いじめの再発防止に努める。児童の心に寄り添いながらの支援を徹底する。②いじめ防止研修を通して、いじめや虐待に対するアンテナを高める。日々の様子やアンケートなどを通して、些細な変化を見逃さないようにする。		
人材育成・組織運営(働き方)	①「笑顔いっぱい下和泉」を実現できるように、職員間の連携を大切にする。 ②「笑顔いっぱい下和泉」を実現できるように、働き方改革を推進する。		
	b7		
	b8		
	b9		
	b10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度 具体的取組	令和 6 年度 自己評価結果	総括
授業づくり	c1		
特別支援教育	c2		
保健管理	c3		
自分づくり	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
	c7		
	c8		
	c9		
	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			